『國民新報』1940年1月21日

[主張]　新内閣の使命と國民[[1]](#footnote-1)

　は、變をに、の、のをとして、した。變とはふまでもなく、のであるが、そののが、のたるべき汪のである。汪は蔣にして、のをして、にらざるべからざることをき、し蔣にしてかざれば、をせんをしたことはすべきであるが、それにしても汪のてんとするのにしては、まだまだとむつかしいがはつてゐるである。こののが、一にのおをつてるである。来事變はがになつてたのであるが、のによつて、ののがのとなるやうにはれる。

　としては、のにより、日、日、ソのがであるが、いづれもだがかずに、のにきがれた。はだに蔣とれをしてゐないし、はもらずにしつた九ケのにこびりついて、一二十六日よりの日をつてゐる。ソとのはしてるではあるが、ののは、これまたのにつてるのである。

かくのく、、ソにするは、變とするであるが、もそのにいて、してそれにるものではない。にとつてはこそろくのものをつてかねばならぬがあるのであつて、こゝに一のとがある。のおのであらう。

にであるが、これにいて、はかうふことをされた。、くしてかう。があるにはある[、]ないにはないことのないに、そしてくしようと。にのあるで、これにきるとふ。ととと。とは、のであり、のをにすることは、のであり、難にへることはのであることはふまでもない。はそのにいてとをけ、をとすることによつて、をしてにするをはしめ、をにすることによつて、をに、をにゑることによつて、ののをにたせて、來のとなつた、のをめようとし、思のたるをして、のをらしめ、によつて、にをらさせるとふににのをしたものとへる。

しながらにで一ながたにしても、のが、のにつてくこれにしなければははれるものではない。の、の、□の、のが日ののやうではいけない。たるものはよろしくの、のためにずるのをひこして、をして、こんどこそは變のにするやうしなくてはならない。

1. この文章は単行本『同胞に寄す』に収録されていない。 [↑](#footnote-ref-1)